

Hello

2001

1

No.210

friends

KANAGAWA
INTERNATIONAL
ASSOCIATION
NEWSLETTER

(財)神奈川県国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ1階 ☎045-896-2626

21世紀を平和と希望の世紀へ

20世紀に、私たち人類はかつて無い技術の進歩と経済の発展を果たしました。その反面、環境破壊と絶えることのない国際紛争が地球そのものの存在を脅かしています。また、人種や民族による差別や南北格差など多くの課題が21世紀に積み残されることになりました。

20世紀は戦争の世紀と言われました。21世紀をこうした暴力の文化から平和の文化へと移すため、国連は20世紀最後の年である昨年を「平和の文化国際年」と定め、多彩な活動を展開しました。

そして、私たちは今、21世紀を迎えています。神奈川県国際交流協会は、21世紀の時代と地域のニーズに応え、公正な地球社会を築くための国際協力活動の推進や異なる文化を持つ人びとが共に暮らす地域社会の実現を目指します。また、より豊かで民主的な共に生きる社会の実現に向けたNGOや市民一人ひとりのチャレンジを応援します。

新しい世紀を平和と希望の世紀とするため、積み残された地球的課題に対して国家を越えたNGOの役割への期待と市民一人ひとりの意識と行動が求められています。みなさまのご理解とご協力をいただき、共に考え、共に行動していきたいと思えます。



財団法人神奈川県国際交流協会
会長 平山 郁夫



特集

21のメッセージから新しい時代が見えてきませんか。

新しい世紀を迎えた今、国際交流・国際協力活動は、何を目指し、どのようにあるべきなのでしょうか。神奈川で、世界で活躍されている21人の方々から『21世紀にしたいこと、期待していること』と『協会への期待』をテーマに寄稿いただきました。

📌:『私が21世紀にしたいこと、期待していること』

🗨️:『神奈川県国際交流協会への期待』

👤:『プロフィール』

萩原 カンナさん



📌 私のプロフィールの中にもあります通り、戦争で肉親を亡くし、みなしごとなった私から見て、初めて出会った親せきと共に生活し、精神的にもいろいろと不安定だった時代を生きてきました。現在、家族も出来て、親にもなった私からは二度と“私の様な子ども”が出来ない時代になってほしいと願い、それをなしとげるためにも、がんばって行きたいです。

基本は“家族”だと思っていますので、親せき共々大家族が幸せである事が一番です。そのためにも私はがんばります。そして平和を願います。

🗨️ 現在県営住宅などに住んでいて経済的にも苦しい中で、子供をあずけられずはたらない家庭が多く見られますので何かいい助けがないのだろうか？

📌 1970年カンボジア国生まれ。激戦のポルポト時代に肉親をなくした。1980年母方の親せきに助けられて、難民として来日した。1992年同国出身のsopanaと結婚、1998年同国出身の男の子(12歳)を養子にむかえた。現在幸せである。第1期外国籍県民かながわ会議委員。

キム カンジョ 廣照さん



📌 「在日外国人住民基本法」の成立。

定住外国人が地方自治における参政権(被選挙権を含む)を獲得すること。

「当然の法理」の行政

通達の廃止。

地方公務員、教員の採用から国籍条項が外れること。

外国人学校が各種学校から一条校並み扱いになること。

私学助成金が一条校並みになること。

一条校：学校教育法第一条で定める「学校」のこと。

アジアNGOネットワークの成立。

日本のNGOが食料支援、人権、医療、環境、平和の各分野でアジアと世界の関係NGOと連なること。

🗨️ 場所の開放を！気楽に集い、交流の出来る場として解放されること。

視線の変更を！一般市民や外国人が企画に参加できる機会を。

📌 1949年横浜市生まれ。1971～92年 YMCA 主事。外国籍県民かながわ会議委員、在日韓国YMCA理事。現在は「外国人に住みやすい神奈川」をめざして、居住支援センター設立にスタッフとして取り組んでいる。

(ダン・タン・ファット さん)



📌 20世紀は科学技術に伴って、戦争の残酷さが極まる時代であった。世界の多くの人々が戦争のため、犠牲者となって、世界のどこかで人間の尊厳さが常に無視され、人々の人権が踏みじられている。その人たちの苦しみを癒すことは多分無理であろう。

しかし、現在世界の交流が通信の発達によって、自他の立場を互いにより理解しやすくなり、自己中心などの考え方もとても不条理であり、また、無理な経済競争により、限りある資源分配の不公平などが生じ、戦争の原因の一つであることは少しずつ地球規模で理解されつつある。そこで、21世紀には人間の尊厳さ、いわゆる人権などの諸問題は重視されてくるであろう。そして、国と国の間、また人々との貧富差の調整は必然的に行うであろう。そして、新時代の国際交流が必ずより活発化し、若い者たちはその状況を把握し、自他の存

在をより自覚し、座視してはもういられなくなり、この新時代に相応しいリーダーシップをとることも必然となるであろうと私は信じております。

🗨️ 上記の状況において、神奈川県国際交流協会が日本人であれ、外国人であれ、新時代に相応しいリーダーたちを養成することにより、地元だけではなく、世界規模の平和に大きな貢献となることは過言ではないと期待しております。

📌 1952年ベトナム北部で生まれ、南部で育つ。1971年留学生として来日中、ベトナムで政変が起こり、国情不安定のためその後29年間日本に定住する。1979年以降、ベトナム難民の多種にわたる相談や、日本語指導などに当りボランティア活動を続けている。現在はかながわベトナム親善協会のリーダーとして超多忙な日々を送っている。

川瀬 スージー 良美さん



📌 20世紀は科学の世紀と言っても良いくらい科学が発達し、そのおかげで人々の暮らしは便利になりました。

物がどんどん作られ、いつのまにか人間は物

やお金で人まで評価するようになりました。物を作ったりお金を稼ぐために人間は自然を破壊し、人間どうしの競争や憎しみも増幅させました。更にこの欲のために戦争まで起こしたのです。

次の世代は私たち大人が残した「負の遺産」を背負って生きていかなければなりません。今しておかなければならないことは、「負の遺産」を少しでも減らすことです。

21世紀は個人の成長や人間関係、自然環境を大切にする世紀であって欲しいです。子ども達が安心して生きられる世の中にするために、私は人権の問題と教育問題などを中心に活動していきたいと考えています。

○日本には色々な国の人が住んでいます。この中には国際的な戦争だけでなく、紛争が絶えない地域からの人もたくさん来られています。国際交流協会として紛争地域から来られている人達に、現地とは違う角度から争いを見直す機会を与えることが出来ないでしょうか。今まで自分達が信じきっていた考え方と違う考え方が有ることを知るのとはとても重要です。また敵対する地域の人と交流し合うことによって憎しみの心が和らげられ、個人的にでも仲よくなればその分だけ平和な社会に近づくのです。国際交流のために国と国、人と人の橋である協会の役割を發揮して欲しいと願っています。

① ブラジル日系二世、結婚のため1996年来日。現在はハローワーク横浜と大和、厚木市役所等で通訳として働きながら、厚木市内の小中学校で日本語指導も行っている。厚木市人権政策推進懇話会の委員、外国籍県民かながわ会議委員。

近田 真知子さん



② 21世紀といっても100年間あります。この100年に期待します。
・世界中の子ども達が1人残らず学校に行くことができますように。

・世界中の大人が子ども達のために責任を持って明るい未来を切り開きますように。そして私は世界中の全ての子ども達の利益のために楽しく激しく行動する、人間の輪を広げていきたいな。

○山下町産貿ビルから本郷台へ移って3年。距離が遠くなった分だけ心も離れてしまった気がして…。もっと顔をみせて、もっと声をかけて、21世紀はもっともっと触れあいましょ。

① 地球市民の会かながわ事務局長。たまたま訪れたタイの世界最大級の孤児院で海外からの支援がとても役立っているのを知り、帰国して地球市民の会かながわを設立。神奈川県国際交流協会評議員。

北村 眞佐子さん



② 紛争と暴力に明け暮れた20世紀、新たな希望と平和をあなたに期待します。誰もが生きる権利が十分あり、幸せになる権利があるんだと

言うことを認め合えるようにしてくださいね。特に声を上げられないでいる子どもや女性たちが本物の平和の中で生きていることを実感できる世界にしてくださいね。
「子どもたち」があなたの生き方の証です。鏡です。あなたはこの人々の人権を守らなければなりません。21世紀は平和と非暴力に支えられた人権の世紀であること、あなたにそのことを一番に期待しています。

○「多文化共生」へのあゆみを共に紡ぎ出しませんか。キーワードは「人権」、かつて開催された「国際識字年」のような世界的動向と地域活動がリンクしたメッセージの発信が欲しい。そのメッセージが神奈川からの先駆的な活動として国際化の新しい道を作ることに成るでしょう。そのための力量を十分に發揮できる人材確保と組織、NGOやNPO、さらには企業・大学・行政などとの情報共有・発信を行うための多様なネットワークや場の形成そして特に人と人との関係を大切に、地域と連携しながら国際的課題解決への道を共に歩むことを協会に期待します。

① ソナの会代表、第1、2期NGOかながわ国際協力会議委員。

横川 芳江さん



② 「いつかは出会い、共に支え合う、未来の友だち」が、私の活動の根源にある。今は、世界中に貧困や紛争があり、国交が無い国もあるが、いつか

は出会い友だちとなり支えあう子どもたちのために、私は「今、出来ること、すべきこと」に力を尽くしたい。

○国際協力や開発教育などの先駆的な役割を果たしつつ、なお、そこにとどまらず、更に広めるために、積極的に外に働きかけをしてほしい。

① 特定非営利活動法人地球の木理事長、第1、2期NGOかながわ国際協力会議委員。

櫻井 ひろ子さん



② 20世紀から21世紀にかけて、生きる事に妙に感慨に浸っています。昨年来のミレニアム騒ぎ

に影響をうけているのかもしれませんが。20世紀は戦争の世紀と言われてました。この神奈川の地にも祖国の戦争で今なお、傷が癒えないまま、20年余りを過しているインドシナ難民定住者がいます。そしてその他の外国人定住者も増えて来ました。今迄もこれからもそんな人々にこだわり続けて共に生きていきたいと思えます。

近頃よく耳にする言葉に癒しとか人にやさしい~などの流行語があります。その背景には自然破壊に繋がる環境汚染そしてハイテク社会、学歴社会に疲れ果てた人々が浮かびます。あらゆる生活環境を悪化させたのは人です。それでも期待したいのです。自然に人にやさしい環境を作るのも一人一人の人の力だと。

○このところ年々、ボランティア活動に対する人々の関心が高まって来ています。県立高校でも単位として認めるところが増えています。

そんな事から国際ボランティア活動の国内活動分野でも今後ますます県国際交流協会の果たす役割は大きくなってきます。

ボランティア団体と関係機関や行政・学校・企業などとのパイプ役、各種情報の提供そしてボランティアの育成や研修にボランティアの人材活用などなど多くを期待しています。

① 日本語ボランティア。1982年より日本語ボランティア活動を始め、1985年にボランティアグループ大和日本語教室に参加。1990年より神奈川県インドシナ難民定住援助協会事務所に入り現在に至る。神奈川県国際交流協会理事。

福原 啓子さん



❶ 20世紀は戦争の世紀だと言われます。今も世界の各地で地域紛争が続いています。21世紀を担う子どもたち、そして誰もが戦争や紛争や

暴力の犠牲になることなく、安心して生きていける平和な社会が21世紀の早い時期に到来してほしいと思います。しかし、現在の延長線上の時代、そんないいことが簡単には実現しそうもなく、政治的な不安、貧困の増大、南北問題の深刻化などが続くかもしれないという暗い予想もできます。日本の場合、少子化がこのまま続けば、間もなく人口の減少が始まり、経済発展や開発優先の社会は望めなくなると言われます。そこで日本社会がどう変わっていくのか、どう変わっていくのがいいのか、真剣に考えなければいけないところに立っているようです。小さい社会ではお互いを尊重し大事にしなければ社会が立ち行かないのではないかと思います。その日のために、「みずら」は、国籍を問わない女性たちの交流の場としてのスペースを提供し、豊かな人と人とのふれあいが生まれる場所になれたらいいなあと思っています。

○情報は量、質ともますます拡大し、それに伴って人の流れも活発かつ流動的になっていくでしょう。富の偏りも残念ながらそう簡単には修正されないでしょう。そうなれば、人は豊かさを求めて移動していきますし、それは現在の状況を見れば明らかなことです。21世紀のどこかの時期で、日本の人口の減少に対して、外国人移住労働者の受け入れを合法化していかなければならないかもしれません。この神奈川県内に今以上の外国人が定住化していく可能性の中で、さらに今以上に国際交流という枠を出て、共生のための役割を果たしていくことを期待しています。

❶ 特定非営利活動法人かながわ・女のスペースみずら代表。騙されて日本につれてこられて売春を強要されたタイ人女性の援助活動からみずらに関わるようになった。女性が連帯することで困難な境遇や問題を解決していきたい。かながわ国際協力基金審査委員、かながわ女性センター運営協議会委員。

熊岡 路矢さん



❶ JVCあるいは日本のNGO(市民による自発的国際協力団体)の調査・研究、提言・発信能力を飛躍的に高めたい。

・「より公正・まともな社会」(紛争・内戦・貧困の問題にとりくむ)に向けての個人・グループの連携を強化していきたい。

・国内・海外をとわず、助け合い支え合う人間関係を少しずつでも広げていきたい。

・国内の「公共事業」、海外でのODA実施に関して根本的な見直しを行うこと。社会開発に向けての「リソース(人、金、技術、情報その他)のよりまともで有効な使い方を実現していきたい。

○日本の国際協力NGOが企画から関わられる、講座、勉強会、シンポジウムなどの機会をふやして頂ければ期待しています。

・「外」への国際協力(緊急から開発・提言・地球市民学習まで)と神奈川/関東在住外国人の生活・健康を守る活動の接点をふやして頂くことを期待しています。

❶ 特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター(JVC)代表理事。「カンボジア市民フォーラム」事務局長、「KOREA子どもキャンペーン」事務局長、JANIC副理事長。

湯本 浩之さん



❶ 20世紀を支えてきたさまざまな組織や制度、常識や価値観が限界や矛盾を露呈する中で、それに代わるものを創り出していけるかどうか。ますます多くの課題を抱える「開発」や「教育」の新しい姿や役割を市民やNGOの立場から提案し、発信していきたいと思っています。

ここ何年間か、NGO活動や開発教育を地域の中でもっと広げていけないものかと試行錯誤していますが、21世紀中には、NGO活動も開発教育も必要とされなくなるような社会になって欲しいものですし、こんな言葉は早く無くなってしまえばよいと実は心の中では思っています！

○魅力的な発想や建設的な代案は、人と

○魅力的な発想や建設的な代案は、人と

人との対等で多様な交流や情報と情報の新鮮で自由な交換の中から生まれてくるように思います。山下町時代に併設されていた「KISコーナー」のような自由空間が果たしていた役割は、今思えば実に大きかったばかりでなく、今だからこそなお重要ではないかと思っています。数ある国際交流協会の中でも、常に時代の一步先を読み込んだ事業を次々と展開してきた実績を再構築すれば、これからの協会には、「新しい学びの共有地」といった新たな機能も期待できるのではないのでしょうか。「地域での学び」がこれからの世界を変えていく原動力のひとつになっていくと思います。

❶ 開発教育協議会事務局長。1960年生まれ。1985年から2年間、在中央アフリカ共和国日本大使館に勤務。1988年から8年間、NGO活動推進センターのスタッフとして各種事業を担当。1997年から現職の他、NGO活動推進センター理事や未来のための教育推進協議会(ef)運営委員なども務めている。

米倉 雪子さん



❶ 公正で貧困のない21世紀へオックスファム・インターナショナルは、1942年に英国のオックスフォードに住む人々が飢餓に苦しむギリシ

ャの人々を支援する活動から始まりました。現在、100カ国以上で緊急救援、開発協力、開発教育、政策提言などの活動を、現地の市民団体とともに実施しています。私達は、貧困と経済的・社会的な不公正はなくすることができるかと信じており、それを実現するため地球規模に市民運動を広げ、変化をもたらすことをめざしています。神奈川県国際交流協会により、神奈川県の市民の皆様ともつながることができれば幸いです。

❶ OXFAM International 日本連絡事務所 コンサルタント。

Encore Pai(アンコー・パイ)さん



🌐 To the Japanese people (KIA): "Cold Japanese people" (ZUMETAI NIHONZIN) which we had been heard since 1980' from time to time. Rich and

cool the Japanese but it is getting change, and has being different since 1990'. Especially this time 921 great earthquake in Taiwan, see ! what you have been done to the quake-victims in Taiwan. On behalf of the Taiwanese people, I want to say THOUSAND THANKS.

From the blessings and love of Eden Social Welfare Foundation Taiwan.

日本のみなさんへ 1980年代から何度となく「冷たい日本人」という言葉を聞いてきました。お金持ちで冷たい日本人、でも90年代とは違って、変わりつつあります。特に今回の大地震に皆さんが台湾の被災者のためにしたことがそうです。台湾の人々を代表して心より感謝いたします。

📌 エデン財団職員 1999年台湾大地震に際して当協会が呼びかけたNGO生活復興活動支援募金の寄託NGO。

John Sisson(ジョン・シソン)さん



🌐 20世紀を振り返ってみると、来るべき21世紀に暗い陰を落すような悲しい出来

事が数々思い出されます。化学兵器、核爆弾、大量殺戮、少数民族に対する虐待など、人間のエゴ、残虐性はテクノロジーの力を借りて一層強烈なものとなり、解決の糸口は見つからないままとなっています。

しかしながら、広島と長崎に不幸をもたらした核の力は、医学の世界で放射線となり、多くの人の命を救っており、私の亡き父もその恩恵にあずかった一人です。ヒトラーを生み出した20世紀は、シュバイツァー博士やマザー・テレサやマハトマ・ガンジーを生み出しています。

だから、私は勇気と希望を持って21世紀を迎えます。私たちの手にはかつての帆船や馬車の代わりに、テクノロジーがあり、瞬時にして地球上の誰とでもコミュニケーションを取ることができます。テクノロジーは悪用することも可能ですが、自由と平等の精神を持

って臨めば、歴史を動かすことになるのです。

🌐 長洲前知事のもと、国際交流協会の支援で始まった民間の大使として「市民と市民の交流プログラム」に参加したことは今までにない貴重な経験として、私を人間的に大きく成長させてくれました。今、私は世界的視野を持った教員として、次世代を担う子供たちを、ここアメリカで育てています。

📌 元メリーランド州招へい講師。

Tony Aiolupo(トニー・アイオルポ)さん



🌐 神奈川県国際交流協会の事業の中では、「国際協力基金」に関心を持ちました。海外に住む、会ったことも、今後会うことも

ないであろう人々に対して経済的な援助を行う日本人たちの心のあり方に、特に感銘を受けています。

太平洋地域は、おそらく地球上でもっともシンプルで、平和な地域です。多種多様な文化的伝統も残っています。南太平洋では、さまざまな文化をもつ人々の相互理解が進み、日本の団体としては特に国際協力事業団が、南太平洋のほとんどの国に活動範囲を広げています。わたしは、日本滞在中に日本人のこと、日本の文化のことをより深く理解することができました。これほど大切なことだと思います。これまでサモアで、畜産振興の業務を日本の青年海外協力隊員と協力して進めてきましたが、時々彼女/彼らに関して正直混乱することがありました。しかし、今は彼女/彼らが何なのか、何をしようとしていたのか、理解することができるようになりました。日本からの援助では、つねにアジア諸国が優先されていますが、もしそうした努力が他の地域に対しても同じようになされたなら、日本人々と文化に対する理解がより世界的に広がるだろうと思います。

📌 神奈川県招へい海外技術研修員、サモア農林水産気象省アドバイザー・オフィサー。青年海外協力隊の推薦により来日し、神奈川県食肉衛生検査所で食肉衛生検査技術を研修中、37歳。

姜 蓮花さん



🌐 ふりかえってみると、20世紀の中国は政治的、経済的に共にいろいろなかを経験しました。残念ながら、経済的には後進の国として有名でしたが、この十年に

かけては、やっと、経済途上国の列に入ることができました。21世紀の私の期待はこの途上国である中国が日本のように先進国になることです。そのために、私は、卒業後、中国に帰って日本で学んだことを中国で生かしたいのです。これが私が21世紀にしたいことであり、そして、全中国の人が望んでいることだと思います。

🌐 神奈川県国際交流協会は私たち、遠く、外国から来た留学生にいい環境、いい居場所を与えてくれて、私たちの留学生活は安心して過ごすことができます。その上、いつも楽しい活動を企画してくれて寂しい心に暖かい空気を与えてくれました。しかし、私たちは日本に暮らしているとはいえ、日本人との接触はかなり少なく、何年たっても日本にいて暮らしているという感じがしません。そんな私たちに国際交流協会はもっと日本人との交流をする機会を与えてほしいです。例えば市民との話し合いとか、これが私の期待です。

📌 中国、神奈川国際学生会館・淵野辺在住留学生、横浜国立大学経営学部経営学科3年。

鈴木 佑司さん



🌐 21世紀には、グローバル化の深化により、ますます国境を超え、文化や宗教、さらには言葉の違いを超えた人と人の相互交流が重要性を増す

と思います。17世紀半ばに近代国家が登場して以来、国家を中心とした行動や考え方が人々を領導してきました。それが今、変わろうとしているといえます。それは逆に、一人一人の選択の重要性が増しており、それだけ個人の責任も重いことを意味しています。寄らば大樹ではなく、自分の手で、自分の手で新しい世界を築く、そんな仲間が国境を超えてできればと念じます。

Hello friends 21世紀へのメッセージ

○この四半世紀、神奈川県国際交流協会はいろいろな点で先駆的な役割を果たしてきたと思います。住民のニーズにきちんと応答する、それが何より基礎であったと思います。「開国」の先端を走るという歴史が支えてきたとも言えるかもしれません。これからも、こうした歴史に基づきながら、子々孫々に誇れる交流と協力の事業が展開されることを期待しています。

①法政大学法学部教授、国際政治、特にアジア・太平洋の政治が専門。日本平和学会会長のほか、民間ユネスコ活動の世界連盟の会長を経験。'80年代初めより神奈川県の国際交流、協力活動に参加、地域レベルの国際政治学のヒントを得、近著『アジア太平洋における地方の国際化』（法政大学出版）をまとめた。かながわ民際協力基金審査委員長。

宮島 喬さん



②「韓国系日本人」「フィリピン系日本人」などハイフン日本人の存在が自然・当然となる社会の到来。「日本人といえばステレオタイプの“純粋日本人”しか認めない私たちの想像力は貧困で不寛容だ。金髪碧眼の人、日本語は不自由だがポルトガル語を自由に操る人、「金」さんや「朴」さんの姓の人など、多様な日本人が堂々と自分を押し出せる、そんな時が来るのを願う。日本が豊かになることでもある。

○「国際」という言葉は、「国」という語を含む。新世紀にふさわしいだろうか。国と国の関係を越えるイメージをもつ「多文化」等の言葉がよくはないか。名だたる多文化県神奈川のこと、「国際交流協会」が「多文化協会」と名のり、もっと活発に“民際”レベルでの人と人、文化と文化の間の架け橋になってくれることを夢みる。

①立教大学社会学部教授、かながわ国際政策推進懇話会会長。

新堀 典彦さん



②20世紀の日本を振り返って痛感することは、世紀の前半にあつては欧米先進国からの技術導入、世紀の後半にあつては世界銀行等からの豊富な資金援助などを極として、近代国家の形成と戦後復興を成し遂げたということでしょう。

つまり20世紀の日本は、絶えず先進国からのバックアップを背景として、今日の繁栄の礎を築いた訳であります。そこで21世紀の私達は、発展途上にある国々の「国づくり」を支援すべく、人材の育成と技術の支援に精一杯努力していくことが過去に私たちが受けた「恩恵への返答」ではないでしょうか。特に人材育成については、我が国に豊富に存在する技術者の派遣と海外からの研修員の受入れをそれぞれ倍増することが21世紀の日本に、当面期待されていることではないかと考えます。

○人と人、地域と地域との交流・協力を図る「民際外交」の推進の拠点として、神奈川県国際交流協会が自治体レベルにおける国際交流・協力分野の先導的役割を果たしてきた意義は少なくないと思います。しかしながら、活動の実態面を見ると、協会の名称に象徴的に表れているように、「協力」よりも「交流」にウェイトが置かれて来たのではないだろうか。今後は国際協力を活動の中核としている本県のNGO・NPOのセンターとして、新たな飛躍を図っていくよう強く期待しています。

①神奈川県議会議員。自由民主党神奈川県議団国際協力議員連盟を平成元年に設立、代表を務める。この間東南アジア方面において、協力・援助の実態調査や支援を展開。かながわ民際協力基金審査委員、神奈川県国際交流協会理事。

栗原 崇さん



②20世紀には、交通及び通信手段の進歩により世界の人々との往来が容易になり、宇宙から美しい地球を見ることにより地球とそこに生存する人類の一体感を実感した。エネルギーや金属資源の枯渇、

地球温暖化の進行などを考えると、21世紀における私たちの生活についての見通しは必ずしも明るくないが、世界の人々とのコミュニケーションを充実し、言葉、習慣及び国境の壁を越えて人類の叡智を結集し、多くの問題の解決にあたりたい。

○神奈川県国際交流協会は、1977年の設立以来、かながわ民際協力基金の創設をはじめ、地域の国際化を推進するためのさまざまな事業を展開しており、その企画力と実行力は、全国の地域国際化協会の中でも先導的な役割を果たしています。

今後も、行政とNGOを結びつけるよきコーディネーターとして、住民が積極的に参加できる国際交流・協力を推進してください。そして、多くの人々が文化の違いや多様性を享受することにより、より一層、世界に開かれた神奈川県となるよう、設立の理念を追求して行ってください。

①東京生まれ、伝導性高分子でノーベル化学賞を受賞した白川英樹先生のおられた研究室の隣りの建物で遺伝子(遺伝情報の高分子)の化学合成を専攻し、環境庁に入庁。OECD環境局コンサルタント、第6回世界青年の船指導官などを経験。1998年から(財)自治体国際化協会勤務。

川口 繁男さん



②21世紀は、ITの普及などによって、世界の垣根がさらに低くなり、地域と地域、人と人が直接結びつく機会も多くなるでしょう。人々が、民族、宗教など様々な違いを越えて相互理解を深め、平和で豊かな世界が実現することを願います。

○今後、国際交流・協力活動分野では、県民やNGOの方々による自主活動が中心的な役割を担っていくと思われます。協会には、そうした活動への積極的な支援とともに、県の施策と連携した幅広い交流・協力事業の展開を期待します。

①神奈川県県民部長、神奈川県国際交流協会理事。

国連シンポジウム2001

地球市民社会に向けて～21世紀の国際協力とボランティア活動～

新世紀の始まりの年であるとともにボランティア国際年でもある2001年。

地球規模の課題などに取り組む国際的なボランティア活動について、国連とNGO、市民の役割、パートナーシップの在り方などについて地域の市民社会の視点から考えます。

と き 2001年1月27日(土) 13:00～16:30

と ころ あーすぷらざ・ホール (JR根岸線本郷台駅徒歩3分)

プログラム

ご挨拶 高島 肇久 (国際連合広報センター所長)

基調講演 中田 武仁 (国連ボランティア名誉大使)

21世紀の幕開け 西暦2001年を「国際ボランティア年」に!

シンポジウム

コーディネーター ・弓削 昭子 (フェリス女学院大学教授)

パネリスト ・村上 徹也 (社団法人日本青年奉仕協会事業部長)

・胤森 なお子 (グローバル・ヴィレッジ)

・塚越 悦子 (国連ボランティア計画 (UNV) 駐在調整官)

入 場 無 料

問合せ・申込み 電話・FAX・E-mailで氏名、住所、電話番号をお知らせください。

地球市民かながわプラザ学習サービス課

電話：045-896-2898、FAX：045-896-2299、E-mail: earthplaza.0052@pref.kanagawa.jp

主 催 国際連合広報センター、県立地球市民かながわプラザ、(財)神奈川県国際交流協会



2001
ボランティア国際年

あーすフェスタかながわ2001「多文化共生の明日メッセージ広場」作品募集! 「多文化共生」への思いを込めた、あなたのメッセージを送ってください。

永住外国人の地方参政権が国会で議論されるなど、昨年は新しい動きがありました。21世紀、ますます多国籍化・多文化化が進む日本社会は、どのように変わっていくのでしょうか。

今年5月11日(金)～13日(日)の3日間、地球市民かながわプラザをメイン会場として、「多文化共生」をテーマとした一大イベント、「あーすフェスタかながわ2001」が開催されます。これは、異なる国籍、文化、歴史的背景を持つ人々が集い、共に楽しみ、互いを理解する目的で行われるもので、期間中、民族芸能ステージやシンポジウム、映画上映、スポーツ大会など、さまざまなプログラムが繰り広げられます。また、会場周辺には、各国料理の屋台や物販のお店もたくさん並ぶ予定です。

現在、神奈川県国際交流協会では、このイベントの企画の一つとして、「多文化共生」への思いを込めた、皆さんからのメッセージを募集しています。寄せられたメッセージは、「あーすフェスタ」当日、会場で紹介されます。

メッセージ(作品)の表現方法は、歌、作文、演劇、スピーチ、写真、ポスター、マンガ、ビデオ作品など、自由です。国籍、年齢は問いません。子どもから大人まで、個人でもグループでも応募できます。

特に素晴らしいメッセージを届けてくださった方には、記念品が贈られます。

イベントに集う多くの人が「多文化共生」のエネルギーを感じ、語り合うためのきっかけとなるような、熱いメッセージをお待ちしています。

メッセージの種類

A 「ことば」によるもの

作文、スピーチ(原稿)、詩、俳句、小説、エッセイなど。日本語でなくてもかまいません。

B 「美術作品」によるもの

絵画、ポスター、写真、マンガ、彫刻など。

C 「音楽・ステージ」によるもの

歌、バンド演奏、合唱、演劇、独り芝居、創作ダンス、パントマイム、落語、漫才など。

D 「映像」によるメッセージ

ビデオ作品など。

E その他

問 合 せ (財)神奈川県国際交流協会
あーすフェスタ・メッセージ係
(E-mail: minsai@k-i-a.or.jp)

応募締切 2001年1月31日(水)

第5回

ご協力ありがとうございました
草の根国際協力応援バザー

昨年11月26日(日) あーすぶらざにおいて、「草の根国際協力応援バザー」が開催されました。このバザーの売り上げはすべて「かながわ民協協力基金」へ積み立て、NGOが行う国際協力活動を支援するために有効に使わせていただきます。

あーすぶらざでの開催は今回で3回目でしたが、昨年に引き続き横浜市栄区内の自治会、町内会の皆さまのご協力をいただき、約150件の品物の寄付が寄せられました。開場前から120名近い方が行列をつくる賑わいで、ほとんどの品物が売り切れしました。

ご協力ありがとうございました。

(売り上げ総額は、去る11月12日(日)に行われた神奈川県国際研修センターの「センター・デー」で開催されたバザーの売り上げ54,600円も含めた金額となっています。)

売上げ総額 537,270円



ことばと文化セミナー ベトナム文化講座

神奈川県国際交流協会では、最近注目を集めている「ベトナム」について理解を深めるプログラムを次のとおり実施いたします。みなさまのご参加をお待ちしております。

第1回

「スクリーンで鑑賞する『青いパイアの香り』～1950年代のベトナムが薫る秀作」

とき 2月17日(土) 15:00～17:00

ところ あーすぶらざ・5階・映像ホール (JR根岸線本郷台駅徒歩3分)

プログラム 田舎からサイゴンに奉公にだされた10歳の少女の日常を描いた作品(104分)です。'93年フランス・ベトナム合作、カンヌ映画祭カメラドール賞受賞。

参加費 無料

定員 135名

第2回

「在住ベトナム人の今～難民から住民へ～日本に暮らして20年、変わったこと変わらないこと」

とき 3月3日(土) 14:00～16:00

ところ あーすぶらざ・1階・中会議室

プログラム 在住ベトナム人の人々の生活や意識の変化を考えます。

参加費 500円(資料代・コーヒー付)

定員 20名

第3・4回

「ベトナム料理教室～とっておきの家庭料理～」

とき 3月10日(土)、17日(土)
10:30～14:00

ところ あーすぶらざ・1階・料理室

プログラム ベトナムの家庭料理を作ります。(生春巻き、魚の酸味スープとビーフン、緑豆とタピオカ豆のぜんざいを予定)

*第3回と第4回は同じ内容です。

講師 グエン ティ ダオさん
ベトナムで看護婦をしていたが、親戚の呼寄せで1990年に娘2人と息子と来日。現在、大和市の自宅でベトナム料理のケーターングサービスをしている。

参加費 1,800円

定員 16名(各回)

問合せ・申込み

電話(045-896-2626) FAX(045-896-2945) 又はE-mail(kikaku@k-i-a.or.jp)でベトナム文化講座係へ。先着申込み順で定員になりしだい締切り。2つ以上のプログラムにも参加できます。

神奈川県国際交流協会(KIA)は

地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人とのつながりを大切にした「国際交流」「国際協力」を推進するさまざまな事業を展開しています。

あなたも会員になりませんか?

協会の活動を支える会員を募集しています。

会員になると

協会が主催する各種催しや国際交流団体、NGOの催し情報、ボランティア情報を掲載した『Hello Friends』『サラダボウル』をお送りします。

会員の方を対象にした催しへご招待します。『エスニック・レストラン・マップ』をお送りします。

会員証の提示で、提携エスニック・レストランの優待サービスが受けられます。

年会費：個人 3,000円から
団体 10,000円から

*会員になりたい方は、協会までお問い合わせください。振込用紙など関係資料をお送りします。

協会が運営するあーすぶらざ内の施設の利用時間は下記のとおりです。

情報フォーラム 9:00～20:00
(土曜・日曜日・祝日 9:00～17:00)
映像ライブラリー 9:00～17:00
*月曜日は休館日です。
(ただし、祝日は開館しています。)



このほか、神奈川県国際研修センターと神奈川県国際学生会館を運営しています。

各事業に関するお問い合わせは、
(財)神奈川県国際交流協会
(☎045-896-2626)
までどうぞ。

Hello friends

2001年1月10日発行
第218号

発行 財団法人 神奈川県国際交流協会
〒247-0007
横浜市栄区小菅ヶ谷一丁目2番1号
神奈川県立地球市民かながわプラザ1階
☎045-896-2626 FAX 045-896-2945
URL: http://www.k-i-a.or.jp
E-mail: hello@k-i-a.or.jp

デザイン (株)エー・シー・ビー
印刷 (株)野毛印刷社

英会話講師のメンディさんが、やさしい英語で書きました。

キヤババン・サライ
I love food. I love to cook food, and I especially love to eat food. That is why I am very happy in Japan, because I like raw fish and seaweed! Maryland is famous for seafood, too, especially crabs. Maryland crabs are popular in the summer. There are many ways to prepare crabs, for example: crab cake (my favorite), soft crab sandwich (my favorite, too), hard crabs (my other favorite), crab soup, crab dip, crab salad, and more. The only way we do not eat crabs in Maryland is for dessert!

So, now I will tell you about one of my favorite

desserts, Grasshopper Pie. It is green, but with no insects. The ingredients include: Oreo cookies, butter, marshmallows, whipping cream, and Creme de Mint (liqueur). The crust is Oreo cookies and butter. Mix the other ingredients together, and freeze the pie for one day. It is so easy and delicious. So, if you ever visit Maryland, you have to eat crabs and Grasshopper Pie.

Mendy Nitsch
KIA English Teacher from the Maryland Sister State Program

*キヤババン・サライとは、かつてシルクロードにあった隣国産、文化・情報の中継点となっていました。協会職員からのメッセージ発信の場となるよう名付けました。次回の機関紙の発行は3月上旬の予定です。(Hello Friendsは奇数月に発行しています。)